



TITLE:

京大広報 No. 29

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 29. 京大広報 1970, 29: 111-112

ISSUE DATE:

1970-02-27

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209666>

RIGHT:

# 京大広報

No. 29

京都大学広報委員会

## 入学試験実施に伴う構内 立入制限等について

本学の入学試験は、3月3日から5日までの3日間にわたって行なわれるが、この入学試験実施のため、次のような諸措置がとられる。

### 1. 授業休止

入学試験実施期間中の3日間は、各学部とも一斉に授業休止とする。

なお、2日は、入試準備に支障がある場合は、学部によっては休講とすることがある。(午後3時以後は各学部とも休講の予定)

### 2. 構内立入制限

夜間(午後8時から翌朝7時まで)の構内立入制限は従来どおり一総長の許可を得た者を除き、本学構内への立入りおよび残留を禁止することであるが、なおまた、3月2日の午後3時から午後8時までの間と3日から5日までの間の夜間以外の時間は、本学教職員および総長が許可した者を除き、本学構内への立入りおよび残留が禁止される。

なお、本学入学試験受験者については、次のとおり、本学構内への立入り・残留を認める。

2日 午前8時～午後3時

3日～5日 午前8時～午後5時

### 3. 門の開閉

入学試験実施期間中の間は、門の開閉が一部変更されるが、変更のある門は、次のとおりである。

#### (1) 本部構内

正門 午前9時～午後4時 大門閉鎖  
通行は小門

その他の時間 現在どおり  
(車輛については別記)

裏門 午前8時～同9時 大門開放  
その他の時間 現在どおり

北門 閉鎖。ただし、午前7時～午後5時30分は、車輛通行のつど開門

西門 終日、完全閉鎖

#### (2) 教養部

正門 午前9時～午後5時 大門閉鎖  
通行は小門

その他の時間 現在どおり  
(車輛については別記)

西門 午前7時30分～午後5時30分

車輛通行のつど開門

東南門 5日午前10時から約40分間

臨時に開門(理学部受験生退出用)

#### (3) 農学部

正門 午前7時～午後5時 大門閉鎖  
車輛通行のつど開門  
通行は小門

### 4. 車輛の出入

入学試験実施期間中の間は、本学構内(病院構内を除く。)に出入することができる車輛は、本学車、官用車、本学教職員の車および本学にやむを得ない要務のある車に限られる。

そして、それらの車の出入口は、本部構内および教養部構内については、次のとおりとする。

#### (1) 本部構内

午前7時～午後5時30分 北門

午後5時30分以降 正門

(2) 教養部構内

午前 7 時 30 分～午後 5 時 30 分 西門  
午後 5 時 30 分以降 正門

月 曜 会 メ モ

第 47 回 (2. 16) 司会 荒木不二洋会員

法学部から故中田教授の学部葬についての部局報告があったあと、本日の話題にはいった。

まず、中教審の高等教育の改革に関する基本構想試案についての各部局における取扱い、討論の様子が報告された。各部局ともじゅうぶんな討議はまだなされていないようであるが、いくつかの部局での討論の中で、前回の月曜会での議論とほぼ同様な批判が提出されたこと、特にこの試案の用語の多義性、表現のあいまいさが話題になったことが報告された。また、「国民全体の立場から」書いたものとしては文部行政に対する批判が少ない。高等教育の社会に対する順応性が強調されて先進性が触れられていない。高等教育の大衆化を実利主義的にとらえているなどの批判も報告された。

次に、このような政府の審議会から提案された

案に対する討論の公表については、賛成にせよ反対にせよその論点が誤解されて伝わらないよう慎重な配慮がほしいとの発言があった。さらにこの発言に関連して、この試案を論ずるときの姿勢が問題になり、この試案を現在の大学に対する批判の一つと考え、大学改革について討論するための一材料と考えてはどうかという意見がだされた。

次に、「教養課程の改善について」の大検委の答申についての各部局での討論が話題にされた。教養部では 10 名程度で構成する検討委員会が提案されていること、大検委案の基本方針については賛成が多いこと、具体的な面については疑問が提出されていることなどが報告された。

なお、この教養課程改善案が中教審案に似ているという批判があることについて、中教審案では一般教育はまったく専門教育に従属するものとして考えられている点が大検委案と違うとの指摘があった。いずれにせよ専門と独立な教養というものは現在では考えられないという意見も提出された。また、中教審案の「教育と研究の分離、外国語教育、体育の取扱い等について意見が交換された。

(荒木不二洋会員、村松寿延会員)